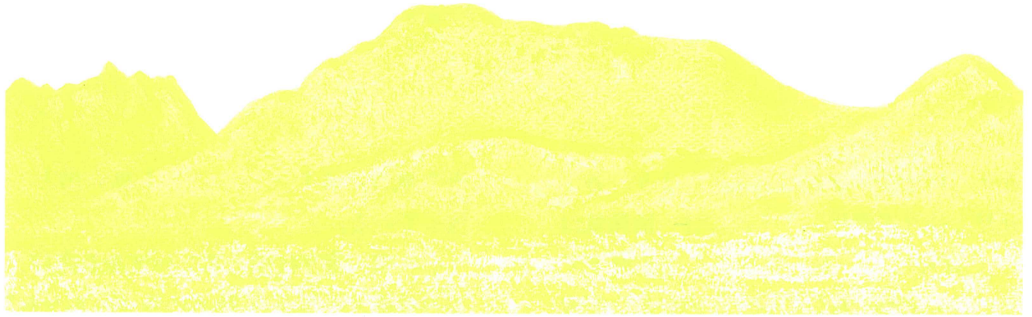


東光原

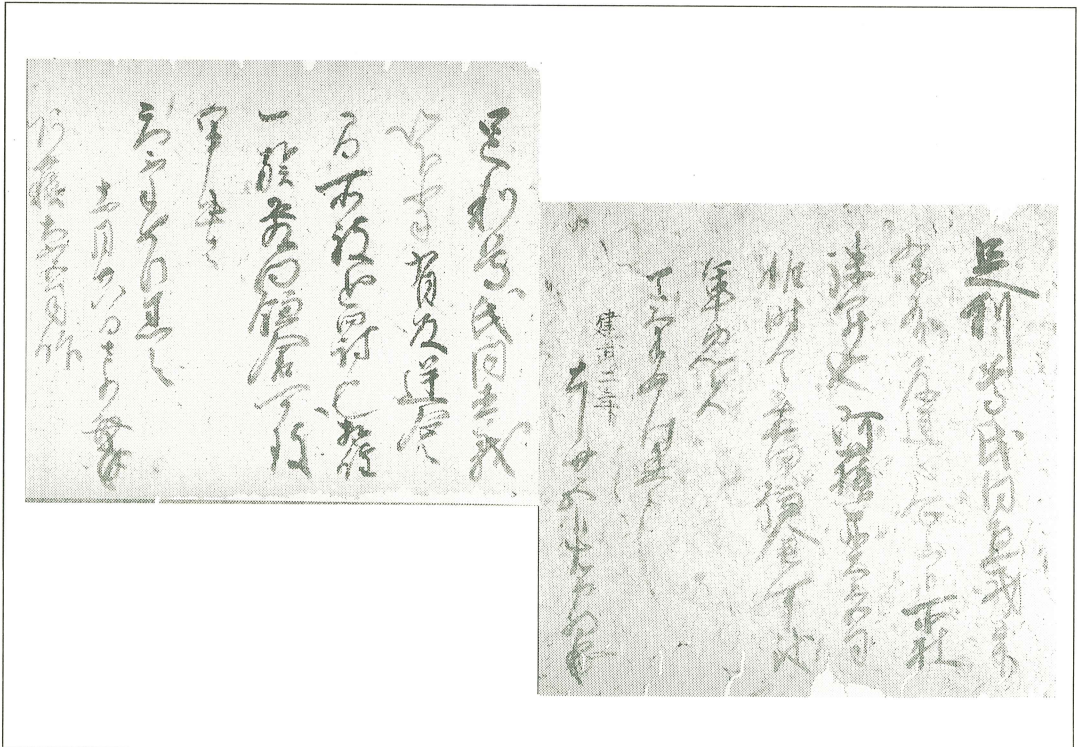
ISSN 0917-7604

熊本大学附属図書館報



Kumamoto University Library Bulletin, No. 4, February 1993

目次 研究情報の入手いま昔
シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介3
重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)
迫田コレクションについて



後醍醐天皇綸旨二通 (阿蘇家文書より) 本文に解説

研究情報の入手いま昔

児島昭次

近年、科学のめざましい進歩により、各学問分野も益々多様化し、それに伴い情報量は著しく増大している。このような状況下で我々が研究活動を続けて行くためには、膨大な量の情報の中から研究に必要な情報のみを検索・抽出し、それを保存する必要がある。

私の若い頃の研究情報の入手では、情報量も比較的少なかったこともあり、二次文献から必要な情報・資料を検索するのはそれほど難しいことではなく、むしろそれを保存するための複写で苦勞したものである。学生時代には、鉄筋建築の書庫の薄暗い片隅で、文献情報をノートにせっせと書き写さなければならなかったし、空調設備のない当時としては、特に夏や冬の季節における筆写は苦痛な仕事であった。

昭和30年頃になると、研究室に一眼レフカメラが購入されたため、写真複写により文献情報が入手できるようになった。この複写法は、低感度フィルムによる文献の撮影、現像によるネガの作成、印画紙への焼付という手順で行われ、手書きの頃にくらべればかなりのスピードアップであった。しかし、経済的理由から、複写サイズを原寸の $\frac{1}{2}$ から $\frac{1}{4}$ 程度に縮小するという、現在では考えられないことがしばしば行われた。その当時得られた文献資料の貴重さが忘れられないせいか、今でもそのいくつかが研究室の書棚に大切に保存されている。また、このような文献の写真複写を通して、写真の原理を理解し、通常のスナップ写真やスライド写真などを作成する技

術を取得できたということも思い出として残っている。

その後、複写技術も著しい進歩を遂げ、湿式の青焼き複写から、乾式のネガ・ポジ複写、そして現在のゼロックスに代表される複写へと進み、今日ではその複写技術が迅速、簡便、安価に利用されるようになった。また、学外にある文献等については、国内大学図書館等に設置されている高速ファクシミリの利用により、これまで多くは郵便に依存していた研究資料の複写物を短時間内に電送によって入手することも可能である。

一方、科学の進歩に伴い各専門分野の情報量も飛躍的に増大し、その中から本質的に必要な情報を検索することは次第に難しくなってきたが、二次文献の整備やコンピュータの発達等によりそれが解決されつつあるようである。これまで継続してきた研究に関する情報は従来の方法により検索することもできる。しかし、これから始めようという新しい研究の場合には、学術情報ネットワークを利用することにより、研究室や図書館に設置されている専用端末パソコンから国内各大学の各種文献等に関するデータベースや商業データベースの検索を行い、収集された情報を基に研究計画を策定することができる。また、最近、学内図書館に導入されたCD-ROM（読み出し専用記憶装置）を利用することにより、研究情報を入手することができる。さらに、将来は国際的な学術情報ネットワークも積極的に利用されるようになるであろう。

今日の高度情報化社会の中で、大学図書館として整備すべき新しいタイプの業務として、情報仲介サービス（図書館職員によるデータベースの代行検索）や情報伝達サービス（電子ボード利用による図書、データベース内容等の案内、電子メール利用による図書の購入・借用、文献複写受付等）があげられてい

る。このような図書館業務の実施には、種々の業務に精通した職員の確保と施設の整備拡充が必要なことは言うまでもないことであるが、近い将来、研究者が上記のような図書館業務を利用できる日が来ることを期待したい。
(薬学部教授 衛生薬学)

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介3

重要文化財 阿蘇家文書 (34巻36冊)

工藤 敬一

(3) 後醍醐天皇綸旨 二通 (原本写真を表紙に掲載, 原文解説を4ページに掲載)

<p>阿蘇大宮司館 十一月廿八日 左少弁 (花押)</p>	<p>天氣如此、悉之、 軍忠者 一族、發向鎌倉、可致 間、所被追討也、相催 以下輩、有反逆之企之 足利尊氏同直義</p>	<p>[2]</p> <p>「建武二年」 十一月廿五日 右中將 (花押)</p>	<p>[1]</p> <p>足利尊氏同直義已下 輩、有反逆之企之間、所被 誅罰也、阿蘇前大宮司 惟時令發向鎌倉、司致 軍忠者 天氣如此、悉之、 (異筆)</p>
-------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈原文解説〉

後醍醐天皇の新政の樹立に協力した足利尊氏は、新政権の公家中心の政策に反撥する武士達の支持を得て、建武2年（1334）10月弟直義とともに鎌倉で叛旗を翻した。天皇は直ちに全国の支持勢力に対し、尊氏・直義追伐の^{りんじ}綸旨を発した。ここに紹介するのは〔1〕阿蘇前大宮司惟時と〔2〕現大宮司惟直宛の二通の綸旨である。綸旨とは、天皇の命令を側近の者が奉じて出す書状（手紙）形式の文書である。内容はいずれも、尊氏・直義誅罰のため鎌倉に発向せよ、というものである。「天気」とは天皇の御気色（御意向）の意であり、敬意を表して行がえで書かれている（この方式を^{へいしゆつしき}平出式という）。

綸旨は通常の文書とことなり、^{しゆくし}宿紙を用いるのが普通である。宿紙は一度手紙等に使った用紙を漉き直した再生紙で、墨をふくんでいるため灰色で薄墨紙ともいう。天皇の命令を取り扱ったのは、天皇の秘書局として、平安時代前期薬子の乱のあとで設けられた^{くすこ}蔵人所である。この蔵人所が発給する勅命文書（綸旨や役人の叙位・叙任の^{くせんあん}口宣案など）には宿紙が用いられた。なぜ天皇の命令文書だけに宿紙が用いられたのかは、定説はないが、あるべき天皇の徳政（儉約）の姿勢を示すものだ、とする説もある。この習慣は、「天気此の如し」とする綸旨の形式とともに江戸時代末期まで続いた。もっとも江戸時代には再生紙ではなく、特別あつらえの薄墨紙が用いられた。

ところでこの二通の綸旨は、趣旨は同じであるが、〔2〕は通常の書状の形式で「阿蘇大宮司館」という^{あてどころ}宛所（あて名書き）があるが、〔1〕にはそれがなく、あて先は本文の中に「阿蘇大宮司惟時」と記されている。

もちろん宛所を書くのが正式の丁寧な書き方である。本文中にあて先の名を入れるのは、^{はくわい}薄礼すなわち高飛車な書き方である。逆に差出人が本文中に、例えば「尊氏謹言」のように自分の名前を書くのはたいへん丁寧な書き方である。この場合、惟直は惟時の子であるが、惟時は隠居し、惟直が現職の阿蘇大宮司で一族を代表する立場にあった。したがって、本文でも惟直宛のものには「一族相催し」という、惣領の立場を示す文言が入れられたのである。

本学所蔵の阿蘇家文書中には、この二通の外、同じ時点での阿蘇氏一門の上島彦八郎惟頼宛の綸旨と惟頼の軍忠状もある。惟頼はこの催促を受けて鎌倉に発向し、菅根山の戦いで負傷し、12月27日、後に恩賞請求の根拠とするため軍忠状（負傷や討死も軍忠である）を提出し、指揮官であった菊池武重がこれに證判を与えている。

菅根山の戦いは足利方の勝利となり、尊氏らは敗走する新田義貞らの政府軍を追い京に入ったが、そのあとを追って上京した北畠顯家の奥州軍に敗れ、建武3年2月いったん九州に下る。そして3月末、多々良浜の戦いに勝ち、5月には再度上京し、戦局の主導権を完全に掌握することになる。

（文学部教授 国史学）

図書館諸統計 (平成3年度)

II 利用統計 (続き)

⑤中央図書館文献複写年間統計

	学外へ依頼		学外からの受付		学内処理	
	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
平成3年4月	253	2,527	92	616	138	724
5月	333	2,396	200	1,412	538	1,920
6月	167	1,748	197	1,288	454	1,139
7月	263	2,581	134	955	288	1,356
8月	293	2,741	191	1,921	197	720
9月	168	1,354	220	1,646	388	1,896
10月	372	4,430	228	1,695	496	1,494
11月	345	4,010	132	973	340	826
12月	164	1,866	130	979	396	1,467
平成4年1月	132	1,342	134	1,686	410	1,073
2月	251	4,009	119	688	356	1,324
3月	190	1,972	144	1,018	188	613
計	2,931	30,976	1,921	14,877	4,189	14,552

⑨薬学部分館文献複写年間統計

	学外へ依頼		学外からの受付		学内処理	
	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
平成3年4月	35	208	9	107	16	131
5月	30	150	19	109	29	320
6月	15	73	28	141	45	521
7月	28	227	23	131	59	568
8月	7	31	27	184	35	279
9月	49	188	20	172	36	269
10月	50	277	31	293	48	624
11月	29	212	32	172	32	302
12月	22	99	14	79	25	191
平成4年1月	32	201	25	937	26	281
2月	20	140	29	126	31	288
3月	11	87	21	88	22	243
計	328	1,893	278	2,539	404	4,017

⑥中央図書館文献複写年次推移

昭和62年度	1,933		1,249	10,514	1,849	12,045
昭和63年度	1,844		1,443	11,031	2,479	13,249
平成元年度	2,387		1,974	16,221	2,114	13,150
平成2年度	1,871		2,479	18,971	2,830	12,196
平成3年度	2,931	30,976	1,921	14,877	4,189	14,552

⑩薬学部分館文献複写年次推移

昭和62年度	190		206		164	
昭和63年度	337		231		207	
平成元年度	331		277		156	
平成2年度	276		203		312	
平成3年度	328	1,893	278	2,539	404	4,017

⑦医学部分館文献複写年間統計

	学外へ依頼		学外からの受付		学内処理	
	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
平成3年4月	52	338	267	2,203	50	800
5月	92	579	343	2,645	46	998
6月	108	666	289	1,835	51	547
7月	63	412	218	1,409	23	348
8月	85	454	317	1,727	20	225
9月	47	280	262	1,473	13	176
10月	58	344	260	1,969	16	289
11月	43	187	216	1,268	21	244
12月	48	242	322	1,916	32	284
平成4年1月	106	614	276	1,536	19	268
2月	91	566	317	1,733	20	525
3月	125	692	279	1,822	11	227
計	918	5,374	3,366	21,536	322	4,931

⑪全学統計文献複写年間統計

	学外へ依頼		学外からの受付		学内処理	
	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
平成3年4月	340	3,073	368	2,926	204	1,655
5月	455	3,125	562	4,166	613	3,238
6月	290	2,487	514	3,264	550	2,207
7月	354	3,220	375	2,495	370	2,272
8月	385	3,226	535	3,832	252	1,224
9月	264	1,822	502	3,291	437	2,341
10月	480	5,051	519	3,957	560	2,407
11月	417	4,409	380	2,413	393	1,372
12月	234	2,207	466	2,974	453	1,942
平成4年1月	270	2,157	435	4,159	455	1,622
2月	362	4,715	465	2,547	407	2,137
3月	326	2,751	444	2,928	221	1,083
計	4,177	38,243	5,565	38,952	4,915	23,500

⑧医学部分館文献複写年次推移

昭和62年度	897		5,556		1,158	
昭和63年度	888		5,959		1,103	
平成元年度	858		6,128		667	
平成2年度	598		3,444		533	
平成3年度	918	5,374	3,366	21,536	322	4,931

⑫全学統計文献複写年次推移

昭和62年度	3,020		7,011		3,171	
昭和63年度	3,069		7,633		3,789	
平成元年度	3,576		8,379		2,937	
平成2年度	2,745		6,126		3,675	
平成3年度	4,177	38,243	5,565	38,952	4,915	23,500

⑬ 図書館間相互貸借統計年間統計

	中央図書館		医学部分館		薬学部分館		計	
	他大学へ依頼	他大学からの交付	他大学へ依頼	他大学からの交付	他大学へ依頼	他大学からの交付	他大学へ依頼	他大学からの交付
平成3年4月	11	14					11	14
5月	18	40					18	40
6月	24	17		1			24	18
7月	15	29		2			15	31
8月	33	7					33	7
9月	28	18		2			28	20
10月	44	33		5		1	44	39
11月	23	24					23	24
12月	22	25					22	25
平成4年1月	24	23		1			24	24
2月	26	20		3			26	23
3月	16	26		1			16	27
計	284	276		15		1	284	292

⑭ 図書館間相互貸借統計年次推移

昭和62年度	67	86					67	86
昭和63年度	149	108					149	108
平成元年度	164	142					164	142
平成2年度	132	199	2	8	2		136	207
平成3年度	284	276		15		1	284	292

第9回特殊資料展を開催

中央図書館では平成4年11月25日(木)から27日(金)の3日間にわたり、「信長と幽斎」と題する特殊資料展を自由閲覧室において開催しました。

今回は永青文庫寄託資料から、織田信長の書状25点を中心に、細川幽斎(藤孝)ゆかりの「青龍寺御城之図」、「山城国西岡御領地之地図」、「田辺御籠城図」などの絵図類、および「九州道の記」、「大原野千句御連歌写」、「衆妙集」などの幽斎文学資料など合わせて40点の資料を展示しました。

また、東京の永青文庫が所蔵している「長岡与一郎(忠興)宛信長自筆書状」(重要文化財)、「惟任(明智)光秀自筆書状」、「千利休自筆書状」など日頃目にすることのできない貴重な資料4点も写真パネルで展示しました。

信長の書状には、豊臣秀吉を「猿」というニックネームで呼んだものや、長篠の戦いの勝利を伝えたものなどがあり、花押や有名な「天下布武」の印判も参観者の関心を引いて、期間中約450名の入場者で賑わいました。

(情報サービス課参考係)



迫田コレクションについて

松本寿三郎

古代史研究家の迫田作松さんの御遺族が蔵書を熊大に寄贈してもいいとの御意向が、もと図書館職員の吉田(久)さんを通して我々の研究室に届いたのは梅雨の最中のことであった。空梅雨とは言え梅雨期は図書を見るのに適していないので七月夏休みに入るのを待って江津湖に程近い迫田家を訪ねた。階下の書棚にはつい近ごろ書店から届いたばかりのような本が未整理のままに積まれていた。ひょっとすると注文はしたものの十分に読む時間はなかったのかもしれない。

二階の書斎には文字どおりぎっしりとそれこそ古代史の本ばかりあった。それは迫田さん独自の分類による整理の仕方にしたがっていた。ちょうど目の高さの一段はすべてが邪馬台国に関するものであった。そのほか天皇と古代神話や古代王朝交替に関するもの、東アジアを含めての考古学関係、弥生時代、古墳、装飾古墳、古代政治史、「吉野ガ里」から「藤ノ木古墳」「高松塚古墳」まで、古代国家と道教に関する本まで、二世紀から六世紀を対象とした本ばかりである。話題になった本は大方そろっていた。この収集にはおそらく二・三十年はかかったにちがいない。

よく歴史ブームというけれども、人々がもっとも関心を寄せているのは古代史であ

り、研究書ばかりでなく啓蒙書・私家版をふくめておびただしい数の古代史の本が刊行されている。迫田さんの興味もまた日本国家のルーツとしての邪馬台国の探求にあったように思われる。考古学の発掘がすすみ、日本の各地に残る遺跡は我々の住む市町村が古代史の舞台であった事を明らかにした。迫田さんの関心は古代統一国家にいたる途上の国家に



あり、「日本古代国家の成り立ち」・「古代の九州」・「古代地域国家の歴史」の三冊の著書がある。ちょうど考古学と古代史学の接点であり、また謎の世紀として百人おれば百人の邪馬台国があるといわれるほど議論が別れるところである。そして迫田さんの蔵書はその諸説に及んでいてこの時期に関心を持つものにとっては得がたいものである。あつかましいとは

思ったが、ご好意に甘えて約八三〇冊全部を頂くことにした。せつかくの蔵書が分散して利用価値が半減することを恐れたからである。

たまたま熊大にはこの時期の専門書が手薄で、不便をかこっていたところであったが、多岐にわたる迫田さんの蔵書が提供されることによって、一挙に充実したものとなった。

後輩諸君の役に立てて欲しいというのが迫田さんの意志であり、ご遺族の願いである。十分活用されるよう期待したい。

(文学部教授 国史学)

日誌（平成4.9.1～12.28）

- 9.1 附属図書館係長会議
- 9.4 古典籍研修会
- 9.22 附属図書館委員会
- 9.24 九州地区国立大学図書館協議会実務
～25 者連絡会議（宗像市）
- 10.3 中央館土曜日臨時開館開始
- 10.6 附属図書館係長会議
" 古典籍研修会
- 10.8 図書館報編集委員会
- 10.11 日米ワンデー・セミナー第13回大
～13 学図書館研究集会（京都）
- 10.20 古典籍研修会
- 11.6 看護学視学委員実地視察
- 11.10 附属図書館係長会議
- 11.13 日本薬学図書館協議会九州地区会議
（鳥栖）
" 学術雑誌総合目録欧文編全国調査実
施及びデータ記入説明会（福岡）
- 11.17 古典籍研修会
- 11.19 名誉教授懇談会に伴う古文書展示
- 11.25 第9回特殊資料展
～27
- 12.1 附属図書館係長会議
" 古典籍研修会
- 12.4 法学政治学視学委員実地視察
- 12.5 国立大学附属図書館事務部長会議
（沖縄）
- 12.6 図書館報編集委員会
- 12.15 古典籍研修会
- 12.18 迫田文庫感謝状贈呈式
- 12.24 図書館報編集委員会

東光原一熊本大学附属図書館報一第4号

平成5年2月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860熊本市黒髪2丁目40番1号 ☎096(344)2111